

学芸員：後藤

博物館学芸員実習を行いました!

恩納村博物館では8月7日から17日まで、学芸員資格取得のための博物館学芸員実習生の受け入れをしました。今年度は恩納村出身で、沖縄県立芸術大学の仲嶺夕理彩さんが実習を行い、展示解説や博物館資料の取り扱い、展示作業などに取り組みました。

今回の「学芸員のはなし」は「むらのきおく100」番外編として、実習生の仲嶺さんに博物館の展示資料を紹介していただきます。



実習生の
仲嶺夕理彩さん



展示解説
実習の様子

簪(かんざし)



方言名でジーファーと言われています。琉球王国時代、男女ともに常時髪に差した髪飾りです。身分や性別によって形が異なり、金、銀、真鍮、べっ甲、木などの素材があり、上流階級は金や銀を百姓はべっ甲や木の簪を差していました。男性用の本簪(写真下)は花型のものを正面から差し、耳かき状の形をしたものが「押差(ウシザシ)」と呼ばれる副簪(写真中央)で後ろから差します。女性用の本簪(写真上)はスプーン状の形をしており後ろから差します。上流婦人は正装時、本簪のほか副簪の「側差(ソバザシ)」を差しますが、百姓は本簪のみです。元服前の男子は女性の本簪を前からも差したりしたようです。現在では琉球舞踊のときなどに衣装と一緒によく使用されています。(仲嶺夕理彩)

博物館講座「メダカを飼育してみよう」参加者募集!

博物館で飼育しているミナミメダカ(通称:リュウキュウメダカ)の譲渡会を開催します。代表的な淡水魚であるメダカの飼育を通して、その生態について学ぶとともに、村内の河川環境や自然環境について考えてみましょう。

開催日時: 10月14日(日)午後2時~

内容: ①村内の河川環境や淡水の生きものについての講座 ②メダカの飼育の方法
③メダカの譲渡会(オスメスペアでの譲渡、10組20匹を予定)

※今回譲渡予定のメダカは以前に東村で採集されたものを譲り受け、恩納村博物館にて飼育・繁殖させたミナミメダカです。当日は飼育水と一緒に袋に入れてお渡しします。

講師: 後藤法宣(恩納村博物館学芸員)

会場: 博物館1階研修室

対象: ①村内在住の方で、メダカを初めて飼う方。
②以下の「注意事項」を守っていただける方。

定員: 10組(申込多数の場合は抽選、10月10日頃までに電話にて通知いたします)

募集期間: 9月15日(土)~10月7日(日)

※9月18日、19日、25日、26日、10月1日は休館のため受付できません。

申込・お問い合わせ: 恩納村博物館 982-5112

※注意事項※

①【生きものは絶対に放流しない】

今回の講座で配布するメダカはご家庭での鑑賞用とし、絶対に野外に放流しないでください。また、可能な限り他の種類のメダカとは分けて飼育するようにしてください。

②飼育に必要な器具(水槽など)は各自でご用意ください。

なお、生体の死亡などについては博物館は責任を負いません。

③飼育に困ったことがある時は博物館にご相談ください。

